

# 札幌市で飼育されていたイヌにおける ニホンマムシによる咬傷の1例

寺澤 元子<sup>1)</sup>・浅川 満彦

<sup>1)</sup> 札幌市北野動物病院 酪農学園大学 獣医学群 (野生動物医学センター)

## はじめに

伴侶動物や家畜の咬傷原因となるクサリヘビ科やナミヘビ科などのヘビ類は、獣医学領域の衛生動物として重要視されている<sup>2)</sup>。特に、イヌではニホンマムシ (*Gloydius blomhoffii*) による咬傷 (あるいは咬症) が報告されているが、大部分が本州の事例であり<sup>3, 5)</sup>、北海道では巡ら (2007) の北見地方での症例に関する報告 (口頭発表要旨) があるにすぎない。しかし、獣医学教育モデル・コアカリキュラム「環境衛生学」の中で、ヘビ類を含めた衛生動物は明確に規定されている。また、動物愛護法では爬虫類以上が対象動物とされ、以上のように獣医学教育の中でも爬虫類について教育が求められつつある<sup>1)</sup>。今回は、そのような身近な教材という観点から事例紹介をしたい。

## ● 経 緯

2005年10月24日、札幌市清田区真栄の住宅街某公園内の草叢で、飼い主と伴に散歩中のイヌ (品種シー・ズー、6歳、6.3kg、避妊済メス) が何かを見つけ、顔を近づけた途端に悲鳴を上げた。飼い主がイヌの先に視線を移すとヘビ類 (種不明) が目撃された。咬傷受傷発生の約1時間後、著者 (寺澤) の動物病院を受診した。左側含部の口唇に咬傷の痕が2箇所あり、同部から持続性出血と浮腫、内出血が認められた (図1)。ステロイド、抗生剤および止血剤を投与し、その後、静脈点滴を開始した。

しかし、呼吸速迫と疼痛も認められ、ケージ内で動かなくなり同患部の浮腫が悪化した。受傷発生の約6時間後、創傷部位の壊死が認められたことから、飼い主へのインフォームド・コンセントを行った上で、マムシ抗血清を投与した。投与法はマムシ抗血清1バイアルを生理

食塩水100mlに希釈して、約3時間、静脈内点滴とした。投与ではアナフィラキシー・ショックに注意しながら慎重に実施し、院内で経過観察をした。

翌日 (同年10月25日)、出血は止まったが、患部である左側口唇全体と左側頬部に浮腫と内出血が認められたが、浮腫自体の程度は受傷当日よりは軽減していた。食欲は通常よりは低下していたが、活動性は良くなり全体的に改善傾向が認められたので、抗生剤および止血剤を以降7日間処方した。

同年11月2日、浮腫は縮小し、体調は回復した。患部の口唇に一部に痂皮が形成されていた (図2)。当日より抗生剤のみ7日間処方した。同年11月9日、痂皮脱落があったが、出血は認められず、浮腫も消失したので完治とした。



図1. マムシにより受傷したイヌ左顔面（受傷1時間後）の正面像（左）と患部拡大像（右：矢印は毒牙の痕）



図2. マムシにより受傷したイヌ左顔面（受傷1週間後）の正面像（左）と患部拡大像（右）

## ● 考 察

傷痕が2箇所であった点から、ニホンマムシによるものと考えられた<sup>3, 5)</sup>。この種は、道北部と根釧では確実な確認が無いなど、生息数の濃淡があるようだが、北海道本島全域に生息している<sup>6)</sup>。北海道でも、前述したように北見でのイヌにおける咬傷があるので、イヌを野外に出す場合、注意が必要である。この事案が生じた時点

では千葉ら(2015)や佐藤(2013)などの有益な情報が無く、手探り状態であったが、早期の抗血清投与が著効を示した事例と考えている。

本症例の治療に関し、当時、急な電話による相談にも関わらず、丁寧にご対応して下さいました一般財団法人日本蛇族学術研究所（群馬県）のスタッフ各位に感謝する。

## 【引用文献】

- 1) 浅川満彦・能田 淳, 2019. 環境衛生学の衛生動物-野生動物学などコアカリ科目との関連性から. 北獣会誌, 63: 147-149.
- 2) 今井壯一, 藤崎幸藏, 板垣 匡, 森田達志, 2009. 図説獣医衛生動物学, 講談社.
- 3) 千葉 明, 加藤なつ紀, 伊藤哲郎, 土屋 亮, 2015. ニホンマムシ咬症が疑われた犬の1例. 麻布大学雑誌, 26: 59.
- 4) 巡 夏子, 高見広之, 山中 求, 高良和憲, 2007. マムシ咬症を疑った犬の1例. 第15回北海道小動物獣医師会年次大会講演要旨集:111-112.
- 5) 佐藤良彦, 2013. ニホンマムシ (*Gloydius blomhoffii*) の咬症と診断した犬の4症例. 獣医臨床皮膚科, 19: 217-223.
- 6) 徳田龍弘, 2011. 北海道爬虫類・両生類ハンデイク図鑑, 北海道新聞社.

※ NJK は、みなさんで作る雑誌です。症例紹介、御質問、御意見をどしどしお寄せください。応募、質問方法は投稿フォームを御覧ください。